

安心・元気なとちぎを共に創る 未来につなぐ

2026

とちぎの道

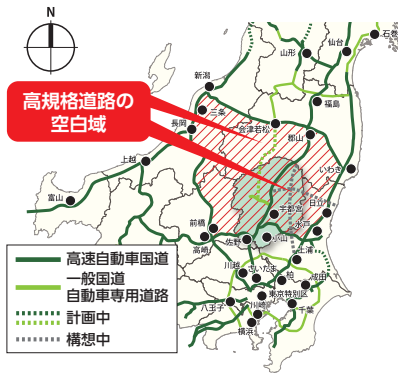
TOCHIGI ROAD NETWORK



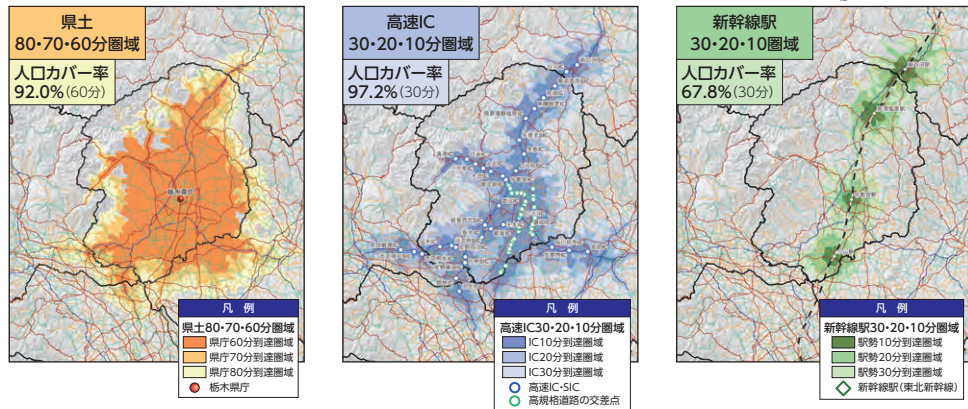
(1) 広域道路ネットワーク

国内外との人やモノの交流・連携を促進するためには、広域道路ネットワークの構築が重要ですが、高規格道路の空白域が存在するほか、整備済み区間においても暫定2車線での供用箇所があるなど、ネットワーク全体として十分な機能を発揮できていない状況です。

県域を越えて国内外との連携を図るとともに、平常時・災害時を問わず安定的な輸送を確保するため、**広域道路ネットワークの充実・強化を着実に推進**することが必要です。



3種類圏域図



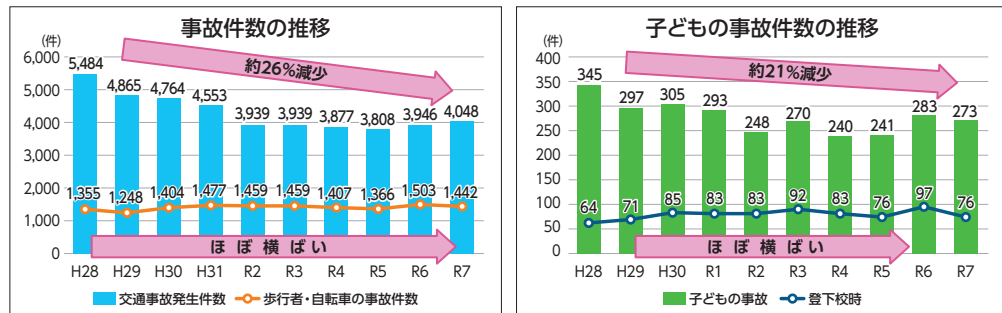
出典：旅行速度データ(ETC2.0データ：2024年4月)

(2) 交通事故

県内の交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、歩行者や自転車利用者の事故や子供の通学時における事故はほぼ横ばいの状況にあります。

また、全国的にも歩行者や自転車が多く利用する生活道路や小学校の通学路などにおいて痛ましい事故が多数発生していることから、子供たちをはじめ、県民を交通事故から守る安全対策が求められています。

子供たちをはじめとする県民の道路利用状況の変化を的確にとらえ、誰もが安全・安心に道路を利用できるよう、**交通安全対策を推進**していくことが必要です。



出典：“とちぎ”の交通事故(令和7年中栃木県警察本部)を加工して県土整備部が作成

(3) 交通渋滞

県内観光地においては、行楽シーズンを中心に交通渋滞が発生しており、観光地としての魅力向上と、観光客の周遊性を確保するため、ハード・ソフトの両面から**観光地や観光周遊道路における渋滞対策を推進**していくことが必要です。

また、県内の各拠点をつなぐ幹線道路等においては、都市部を中心として朝夕の通勤時間帯に交通渋滞が発生し、定時制や速達性が損なわれているため、**幹線道路等における渋滞対策を推進**していくことが必要です。



観光地の渋滞状況(国道119号 日光市)

(4) 道路の防災・減災

気候変動の影響により、全国各地で自然災害が頻発・激甚化しており、今後も自然災害リスクの高まりが懸念されます。そのため、災害時において安定した移動を確保できる道路空間を形成するため道路の防災・減災対策を推進していくことが必要です。



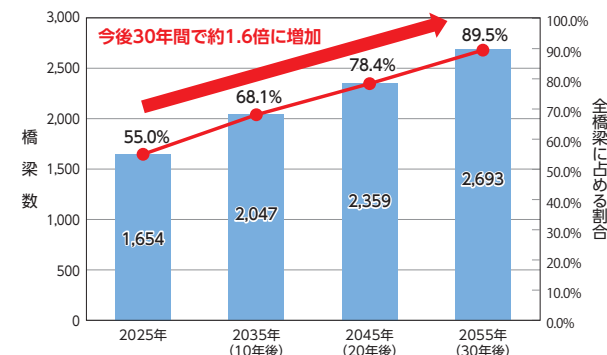
県道宇都宮今市線 日光市岩崎



県道県民の森矢板線 矢板市長井

(5) 道路管理

橋梁やトンネル等の道路施設は、建設から50年以上経過する施設の割合が加速度的に増加が見込まれている中、必要な道路機能を発揮し続けるため、事後保全から予防保全への本格的な転換や新技術の活用などにより維持管理費を低減し、**持続可能な道路管理を推進**していくことが必要です。



栃木県が管理する建設後50年を経過する橋梁(県土整備部集計)

とちぎの道路・交通ビジョン3.0

とちぎの道路・交通ビジョン

目指す将来像

目指す将来像を「誰もが、安全・安心・自由に移動し、交流・社会参加できる持続可能な社会」と掲げ、その実現に向け、大きく変化する時代の潮流や交通環境の変化を的確に捉え、本県の強みを最大限賢く生かしながら、移動の価値と質の向上を図り、「暮らし・地域」、「産業・観光」、「県土強靱化」を支える持続可能な交通ネットワークの構築を目指します。



施策の方向性

目指す将来像を実現する持続可能な交通ネットワークの構築に向け、「全国・海外と連携する交通ネットワーク」、「県内各拠点を結ぶ交通ネットワーク」、「地域を支える交通ネットワーク」の充実・強化と、そのネットワークを支える「県土強靱化の推進」及びこれらすべてに関連する「DX・GXの推進」を着実に取り組む

DX・GXの推進

- ◆ 自動運転・AI技術を活用した持続可能な交通ネットワークの確保・充実
- ◆ デジタル等新技术を活用した持続可能な道路管理の推進
- ◆ 脱炭素化を実現する道路交通の適正化と道路建設・管理の推進

全国・海外と連携する交通ネットワークの充実・強化

- ◆ 県域を越えた連携を支える広域道路ネットワークの強化
- ◆ 国内外からの快適な移動を実現する公共交通の利便性向上

県内各拠点を結ぶ交通ネットワークの充実・強化

- ◆ 拠点間の交流・連携を支える道路ネットワークの強化
- ◆ 拠点間の移動を支える公共交通ネットワークの確保・充実

地域を支える交通ネットワークの充実・強化

- ◆ 安全で賑わいのある暮らしを実現する道路空間の整備
- ◆ すべての人の暮らしを支える公共交通サービスの維持・確保

県土強靱化の推進

- ◆ 災害時における広域的な代替道路ネットワークの整備
- ◆ 平常時・災害時問わず安定した移動を支える道路空間の維持・強化

栃木県広域道路交通計画

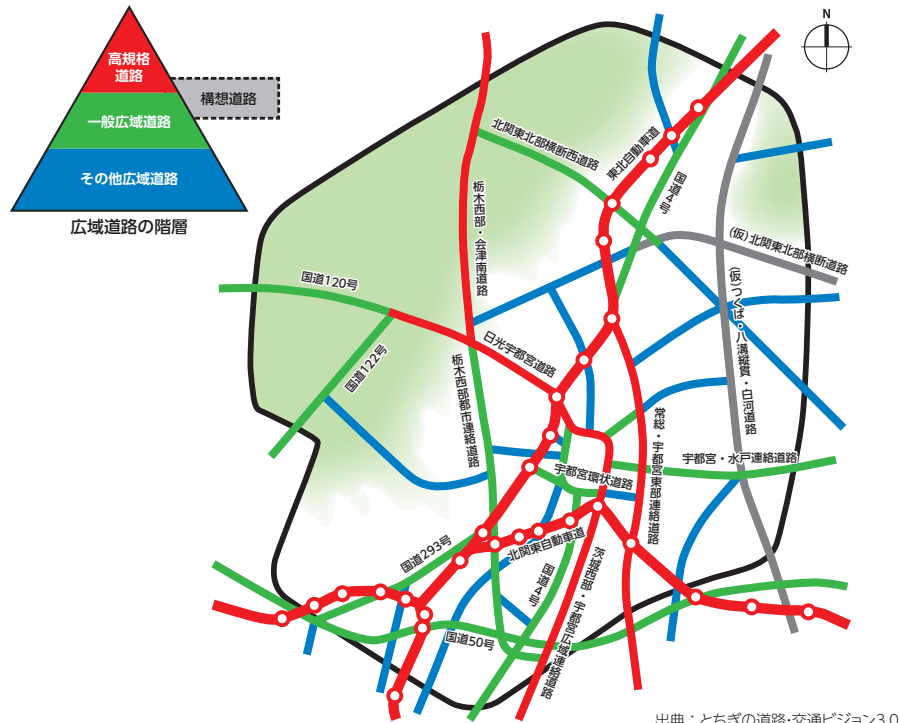
栃木県では、交通基盤等を軸に、人、モノ、情報、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを「コリドール」と呼び、そのネットワーク形成を進めてきました。

また、県内各地域と県庁を60分以内での連絡を目指す「県土60分構想」に基づき、その実現に向けて広域道路ネットワークの整備を進めてきました。

今後は、平常時・災害時を問わない安定的で効率的な物流ネットワークの確保や空港・港湾等へのアクセス強化など、県内はもとより県域を越えて全国・海外と一層連携するとともに、県土強靱化を推進するため広域道路ネットワークの充実・強化を図ります。

21世紀中頃を見据えた、とちぎの広域道路ネットワーク

- 高規格道路** 高速道路を含め、これと一体もしくは補完して機能する広域的な道路ネットワークを構成し、我が国の経済活動を支えるとともに、頻発・激甚化、広域化する災害からの復旧・復興を図るため、主要な都市や重要な空港・港湾を連絡する道路
- 一般広域道路** 広域交通の拠点となる都市を効率的かつ効果的に連絡する道路や高規格道路等と重要な空港・港湾等を連絡する道路
- 構想路線** 高規格道路としての役割が期待されるが、ルート・構造について構想段階の道路
- その他広域道路** 高規格道路や一般広域道路と一体的に機能する広域道路



出典：とちぎの道路・交通ビジョン3.0

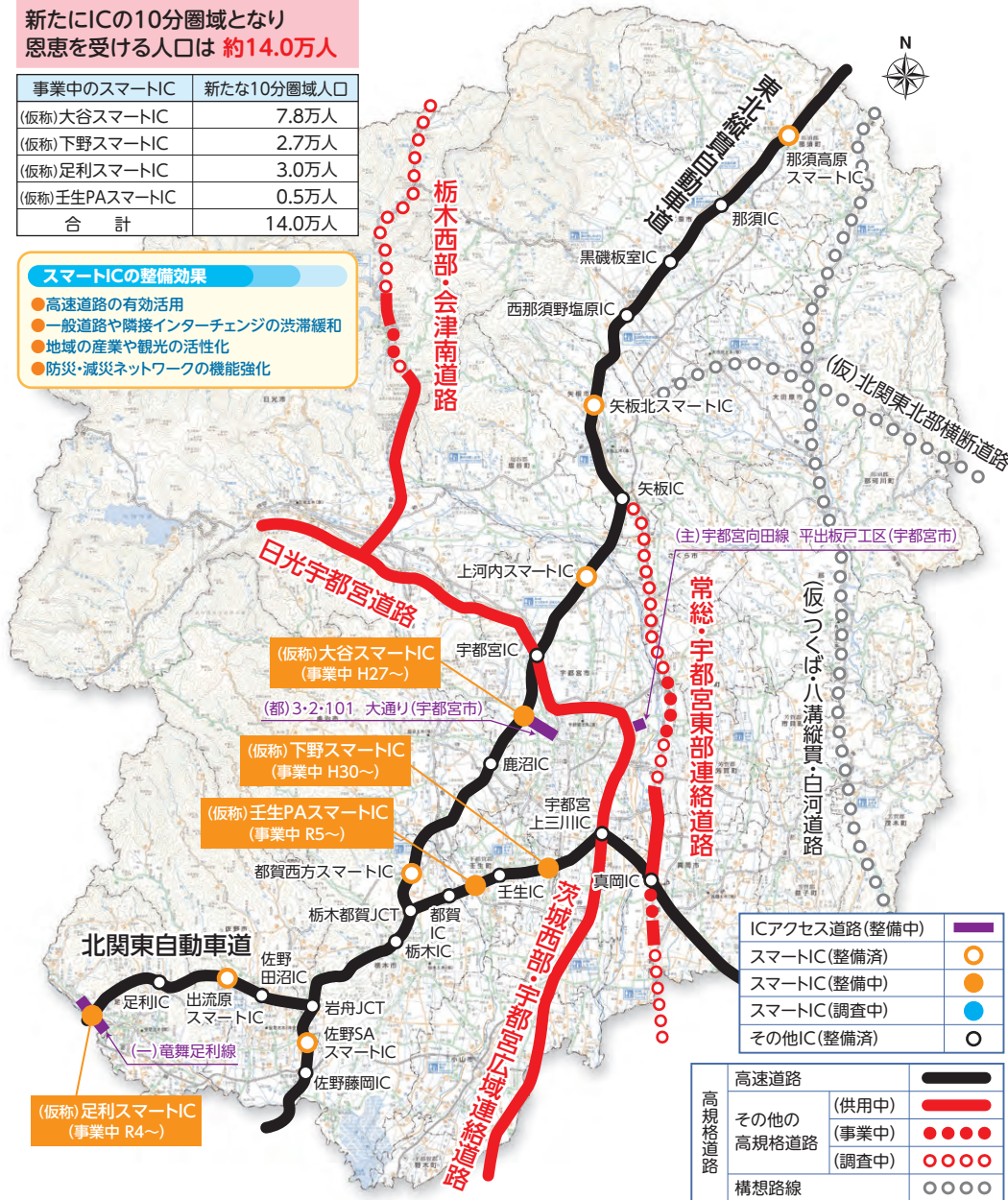
高規格道路の充実・強化

新たにICの10分圏域となり
恩恵を受ける人口は **約14.0万人**

事業中のスマートIC	新たな10分圏域人口
(仮称)大谷スマートIC	7.8万人
(仮称)下野スマートIC	2.7万人
(仮称)足利スマートIC	3.0万人
(仮称)壬生PASmartIC	0.5万人
合計	14.0万人

スマートICの整備効果

- 高速道路の有効活用
- 一般道路や隣接インターチェンジの渋滞緩和
- 地域の産業や観光の活性化
- 防災・減災ネットワークの機能強化



高規格道路の整備

栃木県では「茨城西部・宇都宮広域連絡道路」「常総・宇都宮東部連絡道路」「日光宇都宮道路」「栃木西部・会津南道路」の4路線が**高規格道路**に位置付けられています。

スマートIC及びアクセス道路の整備

高速道路が持つ多様な機能を十分に発揮させるためには、**スマートICの整備**によるインターチェンジ間の長大区間解消、その他の高規格道路やスマートインターチェンジへ**アクセスする道路の整備**等が必要です。

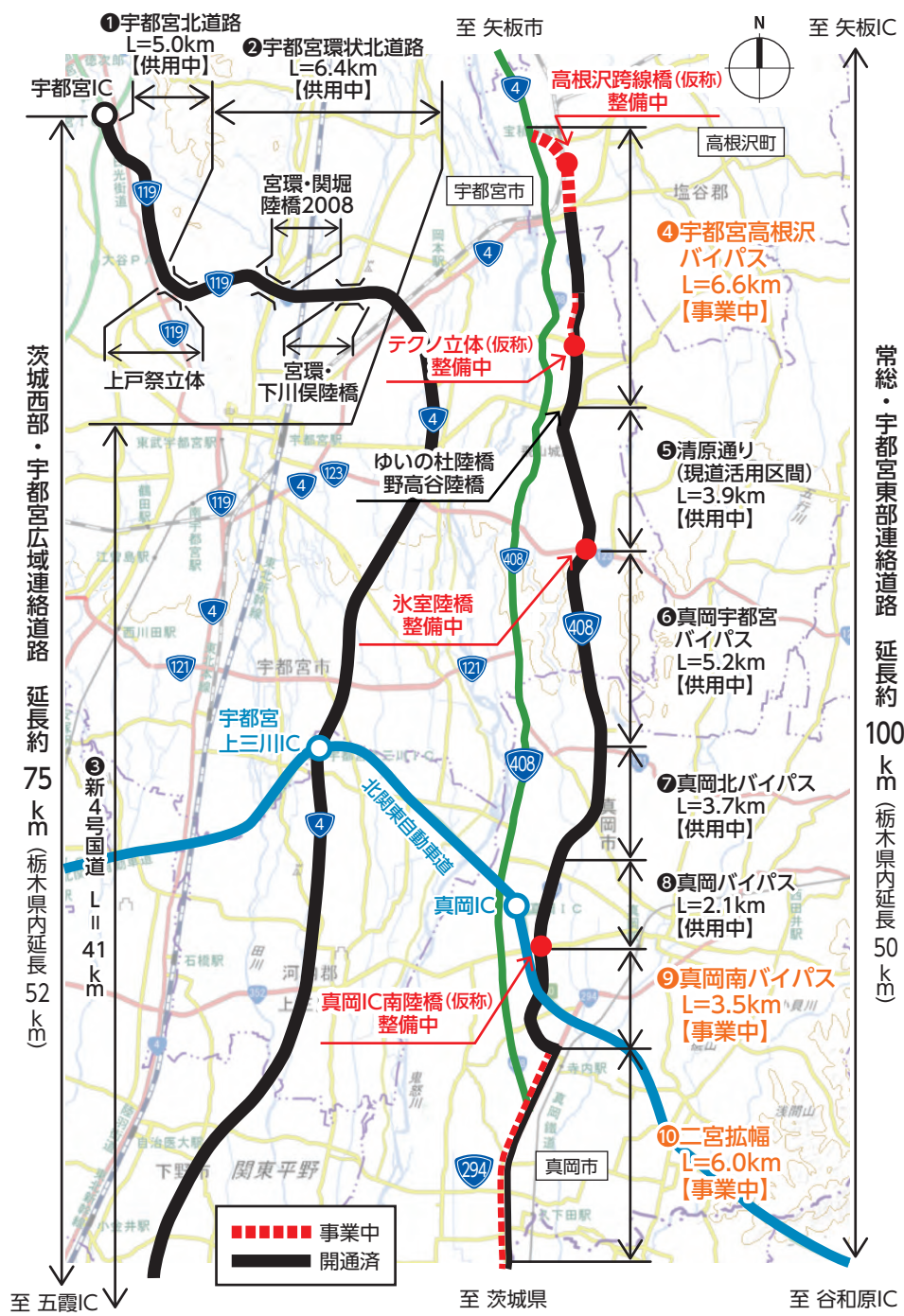


下野スマートIC(完成予想図)
(2018年～事業中)



都賀西方スマートIC
(2023.9 供用開始)

【高規格道路】：高速道路やそれを補完するその他の高規格道路などで構成され、我が国の経済活動を支えるとともに、頻発・激甚化、広域化する災害からの復旧・復興を図るため、主要な都市や重要な空港・港湾を連絡する道路(令和3年に全国各ブロック毎に策定した「新広域道路交通計画」において指定)



栃木県経済の中核を支える「茨城西部・宇都宮広域連絡道路」

起点	首都圏中央連絡自動車道五霞IC (茨城県猿島郡五霞町)
終点	東北縦貫自動車道宇都宮IC (栃木県宇都宮市)
延長	75km (栃木県内延長52km)

1 国道119号 宇都宮北道路 (L=5.0km: 供用中)

宇都宮環状道路と東北縦貫自動車道 宇都宮ICを直結

宇都宮市の産業経済を支える交通の核となる宇都宮環状道路と東北道宇都宮ICを直結し、人口約52万人を擁する北関東最大都市に相応しい高速利便性・定時性を確保します。

2 国道119号 宇都宮環状北道路 (L=6.4km: 供用中)

宇都宮環状道路の交通円滑化

宇都宮北道路と連携し、東北道宇都宮ICへの広域交通のアクセス強化の他、宇都宮環状道路の交通の円滑化を図り、地域産業の活性化や広域的な交通・連携を促進します。



宇都宮環状北道路 上戸祭立体供用状況 2022.7

3 新4号国道 (L=41km (栃木県内) : 供用中)

宇都宮・小山両地区を強力に連携

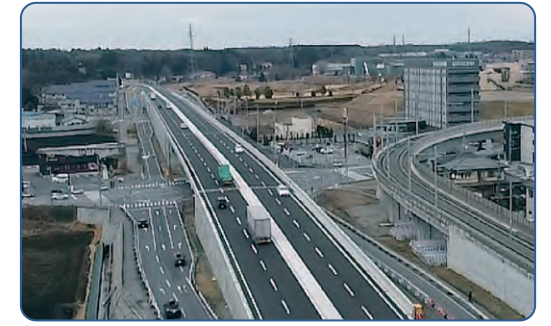
県内の産業の中心である宇都宮地区と、小山地区を強力に連携するとともに、圏央道へのアクセス強化による観光及び産業活動を支援します。

先導的生産技術の世界へ送り出す「常総・宇都宮東部連絡道路」

起点	常磐自動車道谷和原IC (茨城県つくばみらい市)
終点	東北縦貫自動車道矢板IC (栃木県矢板市)
延長	100km (栃木県内延長50km)

宇都宮地区と芳賀地区の高度技術産業拠点の連携を強化

国道408号の各バイパスと連携し、沿線工業団地群の製品輸送の利便性を向上させるとともに、宇都宮地区と芳賀地区の高度技術産業拠点の連携を強化し、栃木県の産業活動を支援します。



宇都宮高根沢バイパス野高谷陸橋供用状況 2025.1

- 4 国道408号宇都宮高根沢バイパス (L=6.6km: 事業中)
- 5 (都)3・3・107 清原通り (L=3.9km: 供用中)
- 6 国道408号 真岡宇都宮バイパス (L=5.2km: 供用中)
- 7 国道408号 真岡北バイパス (L=3.7km: 供用中)
- 8 国道408号 真岡バイパス (L=2.1km: 供用中)
- 9 国道408号 真岡南バイパス (L=3.5km: 事業中)
- 10 国道294号 二宮拡幅 (L=6.0km: 事業中)

連担する工業団地と北関東自動車道真岡ICを連絡

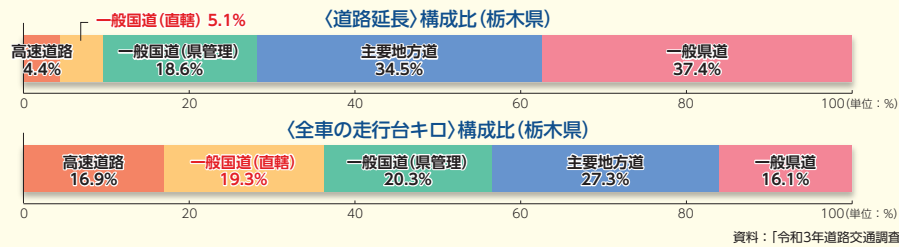
沿線の真岡第1～第5工業団地や内陸最大級の工業団地である清原工業団地から、北関東道真岡ICへのアクセスを強化し、製品輸送の利便性を向上させます。

直轄国道の機能強化

重要な役割を担う直轄国道

直轄国道の4号と50号は、延長では栃木県内幹線道路の約5%ですが、交通量では約19%を分担しています。

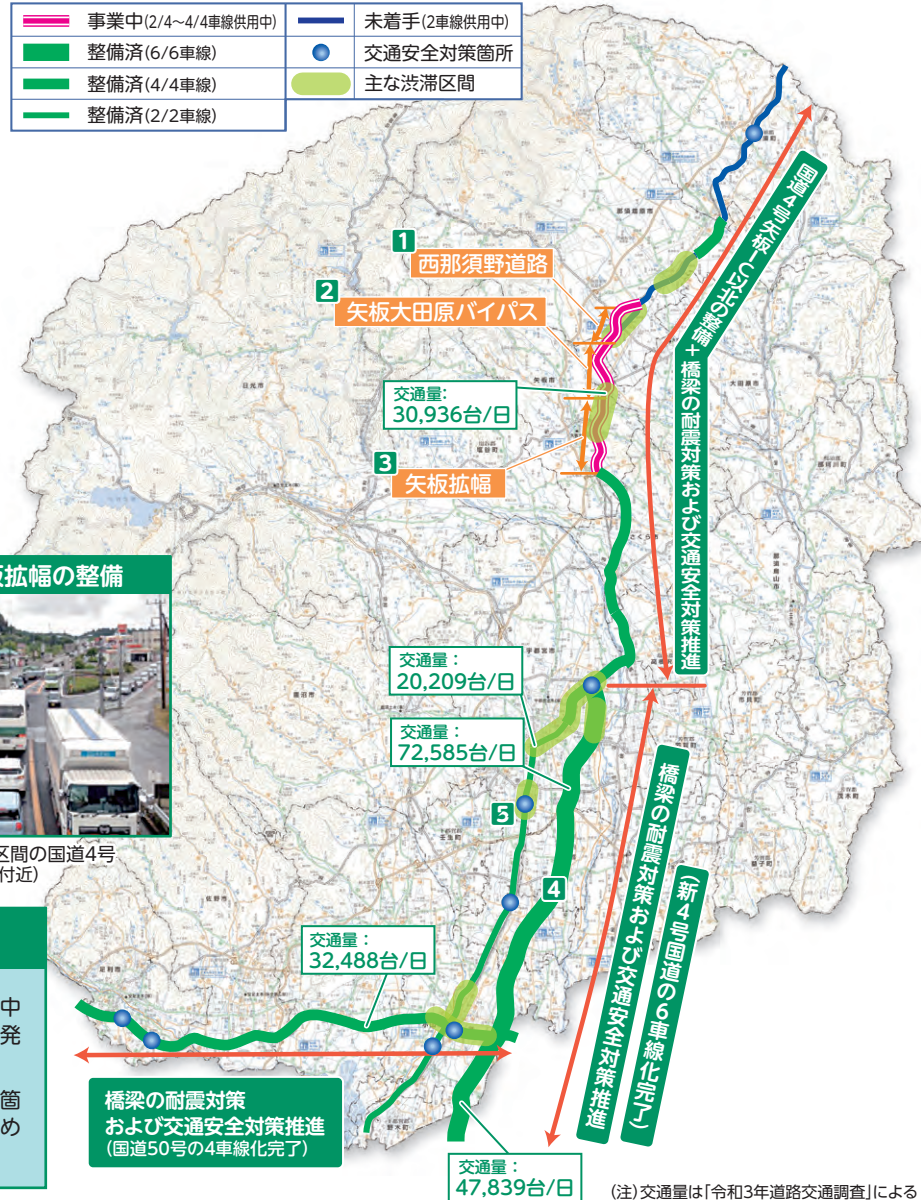
道路種別ごとの交通分担率(走行台キロ分担率)



直轄国道の整備

凡例(令和7年度末現在)

事業中(2/4~4/4車線供用中)	未着手(2車線供用中)
整備済(6/6車線)	交通安全対策箇所
整備済(4/4車線)	主な渋滞区間
整備済(2/2車線)	



(注) 交通量は「令和3年道路交通調査」による

1 国道4号 西那須野道路の整備



那須塩原市烏ヶ森公園付近の施工状況

2 国道4号 矢板大田原バイパスの整備



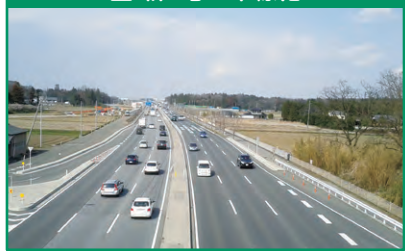
沿道に住宅が立ち並び混雑する国道4号(大田原市 上石上付近)

3 国道4号 矢板拡幅の整備



渋滞している未整備区間の国道4号(矢板市 中付近)

4 新4号 6車線化



平成25年4月に県内の新4号全区間が6車線化完了

5 交通安全対策



国道4号小山市栗宮地区の通学路安全対策

現4号の強化

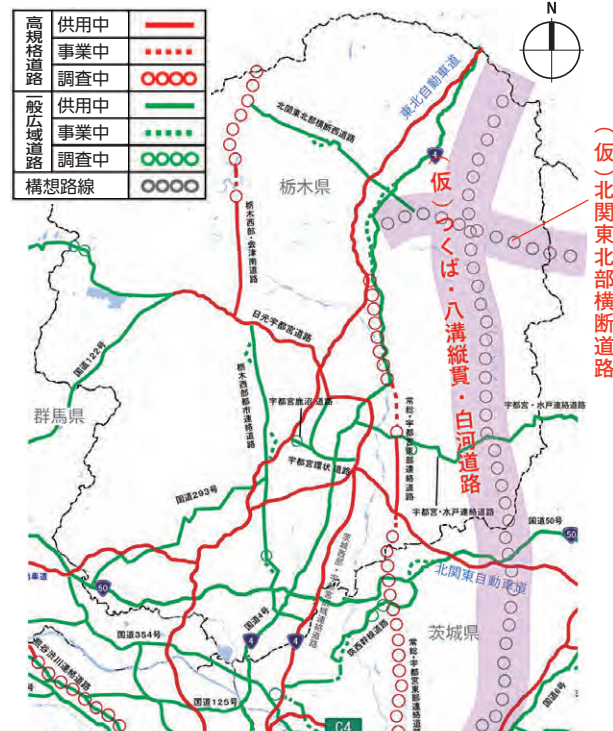
- 現4号は、市街地を中心に事故、渋滞が発生しています。
- 事故、渋滞が著しい箇所について対策を進めていきます。

広域的な地域連携強化・国土強靱化

(仮称)つくば・八溝縦貫・白河道路 (仮称)北関東北部横断道路 について

- (仮称)つくば・八溝縦貫・白河道路は栃木県東部の八溝地域を南北に縦貫し、(仮称)北関東北部横断道路は県北部を東西に横断する広域道路の構想です。
- 本道路は、「とちぎの道路・交通ビジョン3.0」(P2参照)や「関東ブロック 新広域道路交通計画」において、広域道路ネットワークの「構想路線」に位置付けられています。

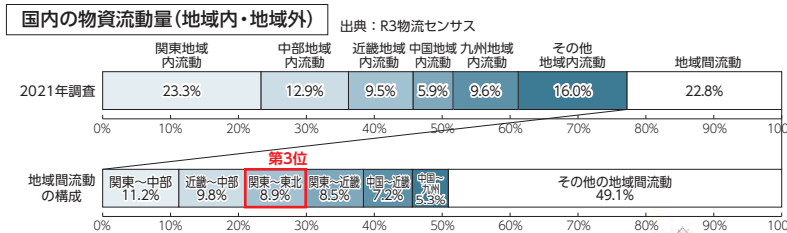
■ 関東ブロック 新広域道路交通計画



■ 八溝地域の課題

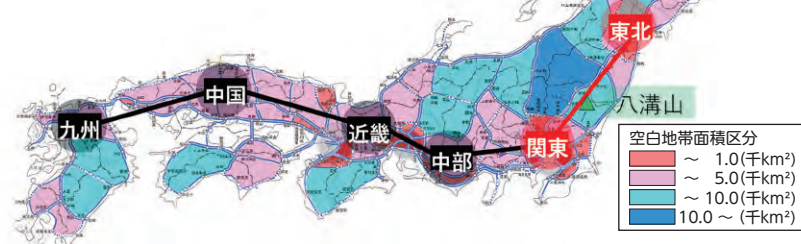
物流にとって脆弱な広域道路ネットワーク

- 関東～東北間の物流は、国内の主要な地域間流動量の中で第3位となっているものの、地域間流動ベスト5の中で本地域のみが高規格幹線道路(高速道路)の低密度地帯を通過する必要があり、企業の生産性向上等の観点から、広域道路ネットワークの充実が求められます。



高規格幹線道路の空白域を、面積に応じ色分けしたものを

地域間流動量上位のうち、**関東～東北間のみが**高規格幹線道路の低密度地帯(空白域面積5千km²以上)を通過



- 高規格道路の空白地帯であり、重要物流道路など大規模物流の基盤が整っていません。



出典：国土交通省 重要物流道路等の指定(2025.4.1)

■ 整備により期待される効果

- **国際交流拠点や全国とのネットワーク強化**
空港(福島・茨城・成田)や港湾(茨城・鹿島等)へのアクセス性向上、県域を越えた交流連携の強化、国土強靱化など多様な効果が期待され、平常時・災害時を問わない安定的な人流・物流を支えます。
- **産業振興・地域連携の強化**
県北・県東地域で盛んな畜産酪農業をはじめとする農業の振興(安定的な供給、飼料の調達)を支えると共に、既存産業団地の分譲促進や新たな企業立地を支援します。
- **周遊観光の支援**
豊かな自然や観光地など、数多くの地域資源が点在する八溝地域の地域間連携・周遊観光を支援します。

広域的な地域連携強化・国土強靱化

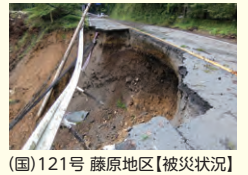
国道120・121号について

全国的な広域道路ネットワーク整備の観点から重要な路線のうち、**難易度の高い技術的課題を持つ広域道路**の整備については、**国と連携した取組**が必要です。

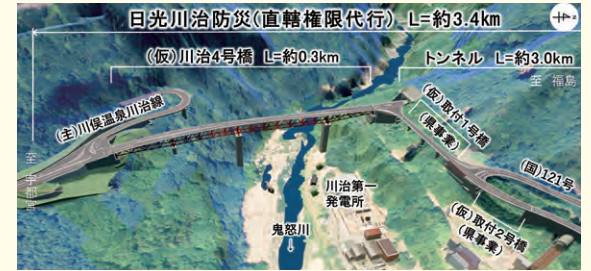


安全で円滑な交通の確保「国道121号」 独鈷沢地区～藤原地区(L=約14km)

- 国道121号は山形県米沢市を起点に、福島県会津若松市を經由し、栃木県益子町を終点とする、東北地方と関東地方を結ぶ広域幹線道路です。
- 当該区間は、急峻な地形で、異常気象時通行規制区間や特殊通行規制区間があり、防災上の課題が集中しています。
- 落石や狭隘箇所等の箇所を解消し、安全で円滑な交通を確保するとともに、東北地方との連携を強化し、東北自動車道や国道4号の代替機能の強化が必要です。
- このうち、施工の技術的難度が高い区間については、国による直轄権限代行事業(日光川治防災)として整備しています。



(国)121号 藤原地区【被災状況】



日光川治防災の完成予想図

産業経済活動等の活性化「国道120号」 金精峠(L=約6km)

- 国道120号は、栃木県から長野県を結ぶ「日本ロマンチック街道」にも位置付けられ、長野県軽井沢町、群馬県草津町、日光市など主要観光地を結ぶ重要な路線です。
- このうち、栃木・群馬県境に位置する金精峠は、標高1,800mを超える急峻な山岳地帯にあり、冬期は積雪により通行止めを余儀なくされています。
- 地域の産業経済活動等の活性化や、大規模災害時における奥日光地域の孤立を防ぐためにも、通年通行化による機能の強化が必要です。



金精峠の雪崩状況



冬期閉鎖前の金精トンネル



除雪の状況

一般広域道路 栃木西部都市連絡道路及び関連事業

国道121号 ①文挾BPI

本路線は、地域間の交流連携を担う広域幹線道路であるとともに、当該路線自体が「日光杉並木街道」として特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けている重要な道路です。

バイパスを整備することで通過交通を転換し、杉並木の生育環境を改善するとともに、安全で円滑な通行を確保し、地域間の交流連携の強化を図ります。

①文挾BPI：L=3.5km W=14.5m、R1～事業中



国道121号 文挾BP【現在の状況】

国道293号 ②楡木BPII

本路線は茨城県日立市と栃木県足利市を結ぶ幹線道路であり、県西部においては主要都市間を南北に連絡し、広域的な交通を担う道路として重要な路線です。

バイパスを整備することで、鹿沼市街地中心部における国道の路線重用区間(国道121号及び352号)の渋滞解消を図るとともに平常時・災害時を問わず安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保します。

②楡木BPII：L=3.0km、W=22.0m、R2～事業中



楡木BPII期工区【R3.8供用開始】

主要地方道宇都宮亀和田栃木線

③合戦場工区、④平柳工区、⑤大宮町工区

本路線は宇都宮市から栃木市を経由し小山市に至る幹線道路ですが、当該区間は交通容量が不足し、慢性的に渋滞が生じています。現在、整備を進める区間は小山市と都賀ICを結ぶ都市計画道路3・3・3小山栃木都賀線の路線上に位置し、安全で円滑な通行を確保するとともに、物流の効率化により産業活動を支援します。

③合戦場工区：L=3.2km、W=25.0m、R2～R6完成

④平柳工区：L=1.3km、W=28.0m、H13～H28平柳 完了(暫定2車線)

⑤大宮町工区：L=1.2km、W=38.0m、H26～R6大宮町 完了(暫定2車線)



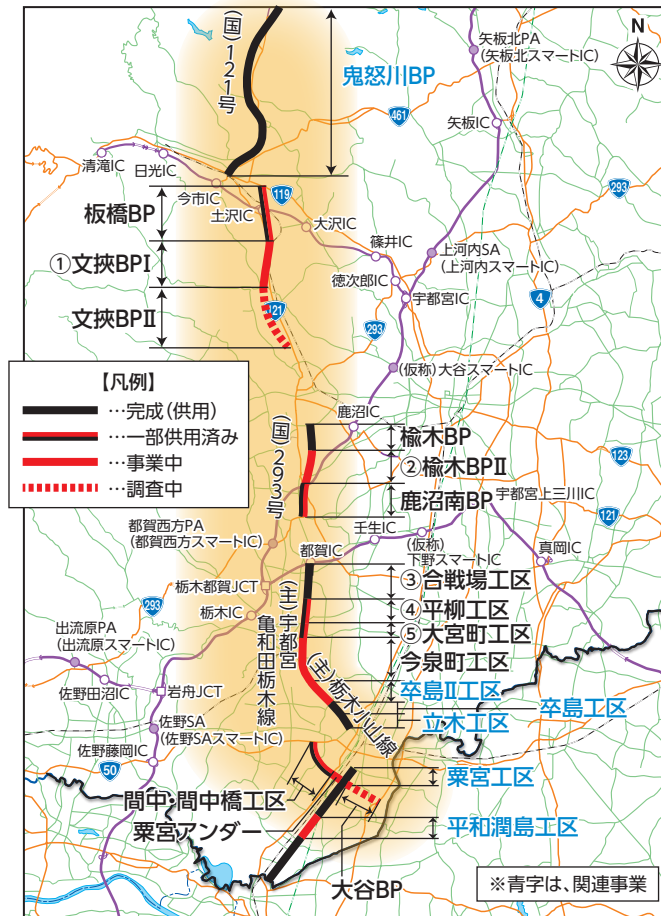
合戦場工区【完成(共用)】



平柳工区【一部供用済み】



大宮町工区【一部供用済み】



一般広域道路

宇都宮・水戸連絡道路

主要地方道宇都宮向田線 板戸大橋

本路線は、宇都宮市中心部から清原や芳賀、芳賀・高根沢などの大規模な工業団地群にアクセスし、鬼怒川左岸地域を縦貫する一般国道408号バイパスとともに、本地域の成長を支える重要な路線です。

板戸大橋の4車線化により、一般国道408号バイパスなどの広域道路や工業団地群との連絡が強化され、本地域のさらなる発展と、防災・減災、国土強靱化に大きく寄与するものと期待されます。

板戸大橋 L=1.0km W=22.0m、R5～事業中



国道120号

国道120号 清滝工区

本路線は、日光市山内から群馬県沼田市に至る幹線道路です。

当該工区の整備により、車線不足による渋滞が緩和され、群馬県から国道120号を利用し、二社一寺までのアクセス向上が図られるなど、観光誘客の促進や地域産業の活性化の効果が期待されます。

清滝工区 L=2.4km W=11.0m、H31～事業中



北関東北部横断西道路

国道400号 三島・西赤田工区

本路線は、茨城県水戸市から那須塩原市を横断し、福島県西会津町に至る幹線道路であるとともに、西那須野塩原ICに直結し、沿道に多数立地している工業団地にアクセスする観光・産業を支える重要な路線です。

当該箇所の整備により、渋滞が解消され、西那須野塩原ICや工業団地等へのアクセス強化が図られるとともに、直轄事業で整備中の国道4号西那須野道路と一体的に整備することで交通ネットワークの強化が期待されます。

三島・西赤田工区 L=3.1km W=25.0m、H24～事業中

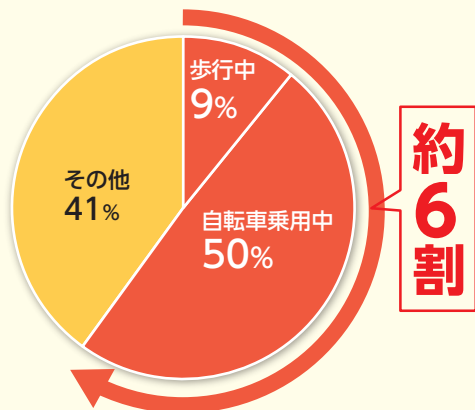


通学路対策

通学路など子どもたちの移動経路において
5年間で**60kmの歩道整備**を推進します。
(令和8年度から令和12年度)

- 栃木県では、令和7年中に中学生以下の子どもが関係した交通事故の件数は**273件**で、**305人**が被害に遭い、このうち歩行中や自転車での事故は約6割の**178人**にも及んでいます。
(出典：“とちぎ”の交通事故 令和7年中(栃木県警察本部))
- 子どもたちをはじめ、県民を交通事故から守り、安全で安心な日常生活を確保するため、関係者と連携した交通安全対策に取り組むなど、誰もが安全で安心して利用できる道づくりを推進します。

子ども(中学生以下)の交通事故死傷者数状態別割合



出典：“とちぎ”の交通事故 令和6年中(栃木県警察本部)



歩道がなく危険な道路を改善



(主)大田原氏家線 さくら市氏家



合同点検実施状況



道路管理者・学校・警察の3者合同で通学路の危険箇所の点検を実施します。

事故危険箇所の対策

県が管理する道路で、事故危険箇所は、
89箇所 指定されています。(平成29年1月指定 83箇所)
(令和4年3月指定 6箇所)
※栃木県全体では国管理道路も含め110箇所(位置は裏面の「とちぎの道路ネットワーク図」参照)

- 栃木県では、10万人当たりの交通事故死者数が令和6年度では**3.16人(ワースト第15位)**になるなど、全国でも常に上位にランクしており、交通事故の対策が急務となっています。
- 交通事故が多発している箇所や、ETC2.0プローブデータ等のビッグデータから特に事故が発生しやすい箇所を「事故危険箇所」に指定し、公安委員会と道路管理者が連携して集中的に対策を進めています。

事故危険箇所における緊急対策の実施例



(主)大沢宇都宮線 宇都宮市新里町



(主)宇都宮笠間線 宇都宮市上河原交差点



(主)宇都宮向田線 宇都宮市陽東

バイパスを整備し交通の転換を図りました

(主)宇都宮鹿沼線 鹿沼市東町 ((都)古峯原宮通り)



対策前



対策後(バイパス整備)

歩道を整備し安全に通行できるようになりました

(一)雀宮停車場線 宇都宮市雀の宮 ((都)雀宮駅前線)



対策前



対策後

観光誘客の促進や地域の活性化を図るため、観光地へのアクセスや周遊を支える道路、日常生活に欠かせない身近な道路における渋滞対策など、**快適で円滑な移動を支える道づくり**に取り組んでいます。

観光地へのアクセス道路の整備や渋滞対策の推進

○ 観光地へのアクセス道路の整備



国道400号/那須塩原市



国道119号/日光市

○ 行楽シーズンの日光地域における渋滞対策の推進

渋滞情報の配信により、マイカーの分散を図ると共に、WEBカメラによるリアルタイム配信や過去の渋滞情報等を配信することで観光客の来訪日の平準化を図っています。

2024(令和6)年の秋における日光の杜寺周辺の渋滞状況



特に3連休の真ん中に大渋滞!

渋滞時は、東武日光駅～神橋(約1.4km・徒歩23分の距離)で

約2時間の渋滞が発生しました!

渋滞情報の配信

日光渋滞対策サイトは
こちらから!



渋滞状況の配信



リアルタイム配信(明智平)

主要渋滞箇所における渋滞対策の推進

県が管理する道路で、早期の対策が必要な主要渋滞箇所(優先対策箇所)が

41箇所あります。(平成24年度特定)

※栃木県全体では、国管理道路も含め81箇所(位置は裏面の「とちぎの道路ネットワーク図」参照)

- 主要渋滞箇所は、以下の指標に該当する箇所の中から、道路利用者の声をもとに、全体で321箇所、その中で優先度の高い81箇所を優先対策箇所として平成24年度に特定しました。
【指標】平均旅行速度20km/h以下(信号2回待ち以上の渋滞が発生)
- 特定された箇所について、各道路管理者が順次対策を進めています。

道路の拡幅による対策
(主)宇都宮今市線
宇都宮市一の沢
(都)大通り)

4車線化及び交差点改良により渋滞が大幅に緩和されました。



車線構成の見直しによる対策
(主)宇都宮亀和田栃木線
宇都宮市細谷
(宇都宮環状道路)

宇都宮環状道路の細谷交差点付近では、部分的に6車線化することで混雑が改善されました。



バイパスの整備による対策
(主)宇都宮亀和田栃木線
栃木市大宮町
(都)小山都賀栃木線)

慢性的な渋滞が発生していましたが、バイパス整備により交通の円滑化や自転車・歩行者の安全の確保が図られました。



無電柱化の推進

災害時の倒壊電柱による道路閉塞のリスク

- 地震や台風などの災害時、倒壊した電柱が緊急輸送道路を遮断し、緊急搬送・物資輸送を妨げる事例が各地で発生している。
- 能登半島地震では、約3,480本の電柱倒壊などにより道路閉塞が発生した一方、輪島市をはじめ8市町で無電柱化を実施した約20kmの区間では、発災直後から救助・復旧活動を行う車両通行が可能となった。



石川県輪島市 国道249号



石川県輪島市 広域農道



石川県穴水町 県道303号

引用元：国土交通省HP「無電柱化推進のあり方検討委員会資料」

無電柱化の取組

- 緊急輸送道路や重要物流道路、避難路へのアクセス道路、避難路など、災害の被害拡大防止や被災時の通行確保を図るために必要な道路の無電柱化を推進しています。

電線共同溝工事

主要地方道
宇都宮電和田栃木線
栃木市大町

被災時の通行確保を図るため、緊急輸送道路に指定されている区間の無電柱化を実施しました。



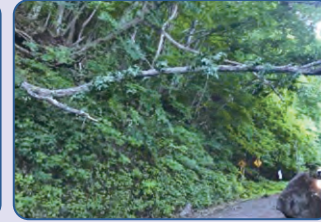
道路法面の土砂災害防止対策

- 近年、異常気象による災害(落石等)が頻発化しています。
- 令和6年度末時点で、落石や岩石崩壊、雪崩等の危険箇所が約600箇所残っています。

一般県道黒部西川線
日光市土呂部 (R2.4)



一般国道121号
日光市五十里 (R2.6)



主要地方道塩原矢板線
那須塩原市塩原 (R2.9)



国土強靱化の取組

- 土砂災害等による道路の通行止めのリスクを解消するため、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策として、落石対策や法面对策等を推進しています。

落石対策

一般国道122号
日光市足尾(砂畑)

見上げ法面からの落石及び崩落を防ぐため、落石防護柵の設置と法枠工による法面の補強を実施しました。



法面对策

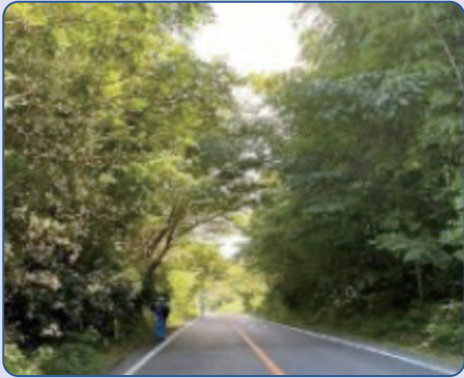
県道塩原矢板線
那須塩原市塩原

見上げ法面の浸食・風化による道路の沈下・崩落を防ぐため、法面の補強を実施しました。



予防伐採の推進

- 電線管理者と覚書を締結し、倒木による道路や電線等のライフライン被害を防止するため予防伐採を推進しています。



国道294号 茂木町千本

橋梁耐震化の推進

- 地震による被害を最小化し、緊急車両の通行を確保するため、重要物流道路や緊急輸送道路上の橋梁について耐震化を推進しています。



落橋防止対策

県道西小埴真岡線 田野橋

緊急輸送道路の機能確保

- 災害直後から避難・救助や物資供給等の応急活動のために緊急車両の通行を確保すべき重要な幹線を、「緊急輸送道路」に指定しています。
- 令和4年度には栃木県緊急輸送道路ネットワーク計画を改定し、河川防災ステーションや重要な物流・備蓄拠点へのアクセス道路なども緊急輸送道路として追加しました。
- 栃木県無電柱化推進計画(令和4年3月)に基づき、市街地内における緊急輸送道路について、重点的に無電柱化を推進しています。

重要物流道路

「重要物流道路」とは、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、物流上重要な道路輸送網として国土交通大臣が指定した路線で、機能強化等への重点支援が実施されます。

また、災害時の道路啓開・災害復旧を国が代行することが可能となります。

台風で倒壊した電柱

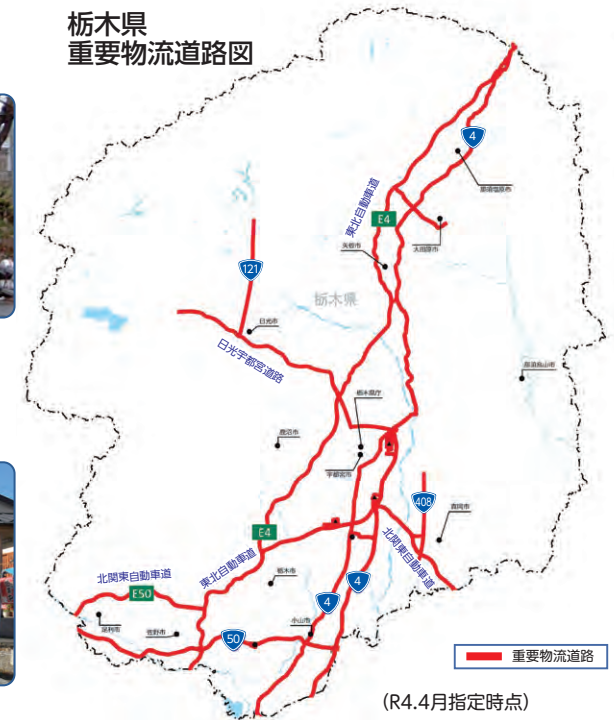


出典：国土交通省
(災害時の救援活動を妨げる電柱)

一般国道119号
日光市東町無電柱化



栃木県
重要物流道路図



(R4.4月指定時点)

公共土木施設等の計画的な点検や効果的な修繕等による長寿命化の推進

老朽化に対する予防保全

定期的な点検と計画的な維持修繕により道路構造物の長寿命化を図ります。栃木県道路メンテナンス会議を設立し、各道路管理者間の情報共有と協力体制を構築しています。

- 県が管理する主な道路構造物は、道路橋(3018橋)、歩道橋(172橋)、トンネル(65本)、道路アンダー(29箇所)、地下道(10箇所)、シェッド等(34箇所)、門型標識(24箇所)、舗装(約3400km)があります。(令和7年1月末)
- 舗装については、穴ぼこや段差による自動車の物損事故などが令和6年度には24件発生しており、路面に関する苦情・要望は約1,000件寄せられています。この他、道路パトロールの結果、路面に関する以上は約12,000件確認され対応しています。
- 道路施設の老朽化による重大な事故等から道路利用者の安全を守るためには、点検→診断→措置→記録といった一連のサイクル(メンテナンスサイクル)を継続的に回し続ける必要があります。
- 県ではこうした道路施設の老朽化に対応するために、構造物毎の長寿命化修繕計画を策定し、対症的な修繕から予防保全的な修繕へと転換することで、維持管理コストの縮減と平準化を図っています。

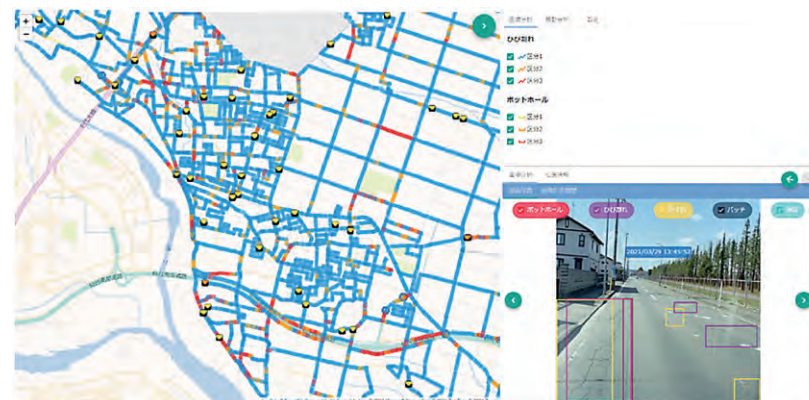
※橋梁、舗装、トンネル、歩道橋、道路アンダー、シェッド等、地下道、門型標識について計画を策定

効率的な維持管理の実現

コスト縮減や維持管理の省力化のため、新技術の積極的な活用や施設の管理におけるDX化を目指します。

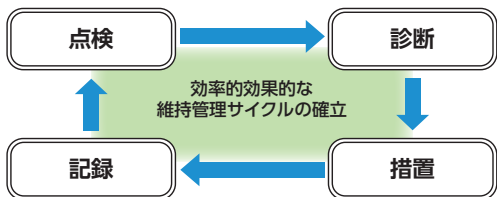
- 点検や修繕等において新技術を活用し、費用縮減や記録の質の向上を図ります。
- 施設台帳、点検記録及び修繕履歴等について、一元管理を実施し、分析することにより劣化進行の精度を高め、効率的な維持管理を目指します。

スマートフォンによる舗装の点検実施状況

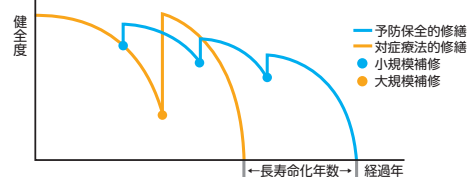


メンテナンスサイクルのイメージ

橋梁長寿命化修繕計画のイメージ



小規模補修を繰り返すことで、橋梁の長寿命化、維持管理費の縮減が図られます。



橋梁点検の様子



橋梁の修繕が完了しました



橋桁修繕前

国道120号(乳ノ木橋)



橋桁修繕後

- メンテナンスサイクルを回し続ける上で、市町には専門的な知識を有する職員が不足する等の課題があります。
- このため、平成26年より「栃木県道路メンテナンス会議」を設置し、国と県が連携して市町を支援するとともに、全ての道路管理者が情報を共有し、互いに協力しながら道路の老朽化対策に取り組んでいます。

道の駅の機能強化

老朽化した施設のリニューアルや防災拠点自動車場の指定を進めるなど道の駅の機能強化を図ります。



道の駅みぶ(防災道の駅 令和3年6月選定)



道の駅しもつけ(防災道の駅 令和7年5月選定)

とちぎの 魅力・実力 ランキング

県勢概要

- 面積：6,408.09km(関東最大)(全国第20位)
●人口：1,868,193人(R7.11.1現在)(令和2年国勢調査では全国第19位)
●県庁所在地：宇都宮市(人口約51万人、令和2年国勢調査では北関東最大)
●市町村数：14市11町(H27.4.1現在)
●シンボル：県木(トチノキ)、県獣(カモシカ)、県花(やしおつつじ)、県鳥(オオルリ)
●県民の日：6月15日(栃木県と宇都宮県が合併し、概ね現在の県域が成立した日)



県マスコットキャラクター 県ニコニコ産長「とちまるくん」

とちぎは首都圏の“食のオアシス”

- 首都圏の食料供給基地
●地域性豊かな農業生産を展開し、農業産出額は全国第10位(令和5年)
●“いちご王国”
●“とちぎのいちご”は、昭和43年から半世紀以上にわたり生産量日本一!
●甘みが際立つ主力品種「とちあいか」や生食からスイーツにも適した万能いちご「とちおとめ」のほか、白いちご「ミルキーベリー」や贈答向けの「スカイベリー」、夏いちご「なつおとめ」など、一年中おいしいいちごが楽しめる!
●ニラと餃子がマッチング
●宇都宮餃子®にも使われるニラの生産量は全国第2位(令和5年)
●「とちぎ和牛」は通もうなる
●県内の肉用牛飼養頭数は全国第7位(令和6年)
●品質の高さは全国コンクールで折り紙つき
●全国有数のそばどころ
●生産量全国第5位のそば生産県(令和5年)
●打ち立てが味わえる農村レストランが各地にある
●全国トップクラスのおいしさ「とちぎのお米」
●令和元年「大嘗祭」に選ばれた「とちぎの星」のほか、「なすひかり」や「コシヒカリ」などおいしいお米が生産されている
●まだまだある「とちぎの農産物」(令和6年)
第1位 かんぴょう、もやし、うど、麻、二条大麦
第2位 生乳、あゆ 第3位 こんにゃく、いも
第4位 日本なし、アスパラガス、とうがらし
第5位 トマト、さといも
※ 原産地は生産量(もやしは産出額、あゆは漁獲量) ※ かんぴょう、うど、とうがらしは令和4年のデータ ※ もやし、アスパラガス、トマト、さといも、あゆ、麻は令和5年のデータ



- 魅力溢れる「とちぎの食品」
●サントリー(栃木市)、カゴメ(那須塩原市)、ハウス食品(佐野市)、仙波糖化工業(真岡市)、フタバ食品(宇都宮市)、滝沢ハム(栃木市)など
●まだまだある「とちぎの製造品」※順位は出荷額(令和4年)
●1位 医療用X線装置、歯科用機械器具・同装置、シャッター、ふとん、硬質プラスチック発泡製品(厚板)
●2位 米菓、砕石
●3位 鉄骨、精密測定器、その他の窯業・土石製品
●「すぐれた伝統の技」
●益子焼、結城紬(以上2品目は国指定伝統的工芸品、結城紬はユネスコ無形文化遺産に登録)、天明錆物、鹿沼組子、烏山手すき和紙、竹工芸、日光彫、間々田組、真岡木綿など57品目が栃木県伝統工芸品に指定
●(公財)日光社寺文化財保存会の技術「建造物彩色」と「建造物塗装」がユネスコ無形文化遺産に登録

とちぎが誇る“優れた歴史・文化”

- 世界が認めた歴史遺産
●「日光の社寺」は平成11年に登録された世界文化遺産(日光の社寺・二荒山神社、東照宮、輪王寺の二社一寺)
●「日光杉並木街道」は、令和7年に植樹開始から400年を迎えた、ギネスブック認定の世界一長い並木道(約37km)
●歴史遺産は「日光だけではない」
●「待塚古墳」は、日本初の学術的な発掘調査が行われた遺跡。江戸時代、水戸光圀の指示で調査が行われた。
●「下野薬師寺」は奈良時代に設置された日本三戒壇の一つ。東戒壇とも呼ばれた(戒壇・僧侶の守るべき戒律を授ける所)
●「足利学校」は日本最古の学校。室町時代にザビエルが西欧に日本最大の坂東の大学と紹介
●「那須疏水」は明治初期につくられた日本三大疏水の一つで、平成29年に世界かんがい施設遺産に登録(那須野が原を舞台とした日本遺産の構成文化財の一つ)
●伝統芸能もすごい!
●日本一の野外劇「烏山の山あげ行事」(7月)、絢爛豪華な彫刻屋台の「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」(10月)(以上二つは平成28年ユネスコ無形文化遺産に登録)など
●歴史ある芸術祭
●昭和22年から続く文化芸術の祭典「県芸術祭」は、東京、大阪に次ぐ歴史あり

とちぎは恵まれた県土

- 世界へつながる交通の要衝とちぎ
●東京・北海道への南北方向や太平洋・日本海への東西方向へも楽々アクセス
●東京まで新幹線でわずか50分。東北道・北関東道に加え、圏央道の利用で、国内各地・空港への移動もスムーズ
●住めば実感「安全・安心」・「四季の移り変わり」
●大規模な自然災害が比較的少ない、寒暖の差(日最高気温の月平均の最高値と日最低気温の月平均の最低値の差)が34.5℃と大きく(第7位)はつきりした四季を楽しめる
●豊かな県
●1人当たり県民所得全国第5位(令和3年度)
●1住宅当たりの敷地面積全国第7位(令和5年)

とちぎが生む“多様な工業製品”

- 「ものづくり県 とちぎ」
●大手企業や技術力の高い中小企業が集積し、製造品出荷額等は全国第13位(令和5年)
●県内総生産に占める製造業の割合は全国第3位、第2次産業の割合は全国第3位(令和3年度)
●「MADE IN とちぎ」の車が世界を走る
●日産(上三川町)、ホンダ(芳賀町・高根沢町等)など
●「MADE IN とちぎ」の飛行機が世界の大空を飛ぶ
●主要部品を県内で生産、SUBARU(宇都宮市)など
●「MADE IN とちぎ」の医療機器が世界で活躍
●キャノンメディカルシステムズ(大田原市)、マニー(宇都宮市)など
●「世界トップのシェア製品」を有する企業が活躍
●デクセラアルズ(下野市・反射防止フィルムなど)、ナカニシ(鹿沼市・歯科用ドリル)など
●国内を代表する「有力企業が立地」
●JT(宇都宮市)、日立グローバルソリューションズ(栃木市)、富士通(大田原市・小山市)、キャノン(宇都宮市)、パナソニック(宇都宮市)、ブリヂストン(那須塩原市)、ファナック(壬生町)、資生堂(大田原市)など
●「国内トップクラスのシェア」を有する企業が活躍
●レオン自動機(宇都宮市・包あん機)、コマツ(小山市・フォークリフト)、TKC(宇都宮市・地方税電子申告支援サービス)など

栃木県サイクリングルート



国際観光都市“日光”を 訪日外国人に向けてわかりやすくPRするため 英語と数字で表現した 「ルートNIKKO(ルート25)」

那須(ナス)を一周 することから 「ナス1」

県北版エリア ナス1

県西版エリア ルートNIKKO (ルート25)

設定年月:令和5(2023)年3月13日 通過市町:宇都宮市、鹿沼市、日光市、塩谷町 延長:約198km

渡良瀬川沿いを通過し、 8市町を通過するルートだから、 「ワタラセ8」

県を南北に流れる 「鬼怒川」と県東部の 「八溝」地域を組み合わせ、 「鬼怒川・八溝サイクルルート」

県南版エリア ワタラセ8 (ワタ8)

設定年月:令和4(2022)年7月11日 通過市町:足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、小山市、下野市、壬生町、野木町 延長:約194km

県東版エリア 鬼怒川・八溝 サイクルルート (おに八ち)

設定年月:令和4(2022)年3月14日 通過市町:宇都宮市、真岡市、さくら市、那須烏山市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、高根沢町、那珂川町 延長:約194km



発行/栃木県県土整備部交通政策課 〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20 TEL.028-623-2409

